

第5回 区民協働のあり方検討会議
議事概要

日時・場所

- 1 日時 平成29年9月28日(木) 午後6時30分～午後8時00分
- 2 場所 ココネリ3階 ココネリホール西側

次第

- 1 開会
- 2 案件
(1) 区民協働のあり方検討会議報告書について

配付資料

- 1 区民協働のあり方検討会議 委員名簿・座席表 ... 資料1
- 2 これまでの経過と今後の予定 ... 資料2
- 3 区民協働のあり方検討会議報告書(案) ... 資料3
- 4 練馬区区民との協働指針 ... 参考1
- 5 みどりの風吹くまちビジョン ... 参考2
- 6 みどりの風吹くまちビジョン(概要版) ... 参考3
- 7 区政改革計画 ... 参考4
- 8 協働の形態とその意味合い(佐藤座長資料) ... 参考5

出席委員(10名)

佐藤真久委員、広石拓司委員、加藤政春委員、武田康宏委員、高原洋子委員、
尾原亮子委員、三谷ますみ委員、村木善郎委員、吉田美穂子委員、田中一宏委員

欠席委員(1名)

美玉典子委員

区出席者

専門調査員、地域文化部長、地域振興課長、協働推進課長

事務局

地域文化部 協働推進課

傍聴者

0名

議事概要

1 開会

座長

- ・第5回区民協働のあり方検討会議を開催する。

2 案件

(1) 区民協働のあり方検討会議報告書について

事務局

- 資料2 これまでの経過と今後の予定の説明
- 資料3 区民協働のあり方検討会議報告書(案)の説明

座長

- ・質疑に移る。
- ・今回の報告書の軸は、区から区民に対して協働のあり方を示すというものではなく、区民の自発的な活動の中から、めざすべき協働のヒントを見つけていこうというものである。
- ・会議の中で話題となった地域の中での活動の事例を示し、こうした事例をどのように活性化させていけば良いか。そのために区はどのように支援すれば良いかという内容になっている。
- ・協働とは「こうあるべきだ」というものではなく、区民の自発的な活動に内在するヒントから考えていこうという内容の報告書である。

B委員

- ・4ページがまとめの内容になっている。このページを見て、ポイントが分かれば良いと思うが、「一」の見出しが「これまでの協働を超えた取り組みに挑戦してください」では、良くわからない。
- ・例えば、「区民の自発性を大切にされた協働に挑戦してください」というほうが、分かりやすいのではないか。
- ・また、「二」の『わたしたちが「めざす協働」の姿を明らかにするため、「新たな試み」を妨げる要因を乗り越えやすくするための支援を充実してください』は、区が協働というものを決めつけず、区民の取り組み状況を見て、区民が新しく始めることを上手に促すことが大切だというイメージだと思うが、見出しが抽象的で良く分からないと思う。
- ・第4回目の会議での意見が26ページ以降に掲載されている。その良い意見がたくさん掲載されているので、その内容を、11ページ、12ページの委員からの意見にもう少し反映したほうが良い。

座長

- ・他に意見等はあるか。

H 委員

- ・4 ページが大切だと思う。イメージ図等を入れて、表現したほうが良いのではないか。
- ・なかなか全文を読むのは大変だ。各章の最初の部分を読めば、報告書の内容がおおまかに分かるような工夫できないか。
- ・区民参加と協働を上手く進めるためには、今までは区に任せれば良いと考えている区民に対してどのように働きかけをしていくかということも大切だと思う。そのあたりの記載がないのが気になる。
- ・活動をしている人がいて、活動が上手くいかないことに対するソリューションの記載はあるが、そこよりも、活動に関わっていない区民をどうするかということが、区民参加が目的ではないのではないか。

座長

- ・他に意見等はあるか。

K 委員

- ・提言によって、何が実現できるのかを、イメージできる図や表現が欲しいと感じた。
- ・区民の持続可能な活動を支える支援について、区民のモチベーションが高まるような記載になっていると良い。みどりのまちづくりセンター等の中間支援組織の記載がもう少しあっても良い。

事務局

- ・「区民参加と協働のグランドデザイン」を作成する中では、みどりのまちづくりセンターや社会福祉協議会などの中間支援組織の立ち位置や役割も記載することになると考えている。

座長

- ・他に意見はあるか。

I 委員

- ・この報告書の中で、私が一番興味あるのは、26 ページからの第4回の会議のワークでの委員の主な意見の記載である。何について書いているのかを一見して分かるように、小見出しを付けるなど、もう少し整理して記載したほうが良い。

座長

- ・他に意見はあるか。

E 委員

- ・少し硬い文章のように感じる。図式で説明したほうが良い。
- ・26 ページからの委員の主な意見の記載は、小見出しが必要だと思う。

座長

- ・他に意見はあるか。

B 委員

- ・何のために協働を広げるかを考えた時に、最終的には、もっと多くの区民が問題解決

に関わっていくということだと思う。行政ができるところ、区民がやらなければならないところがあり、そのために、様々なNPOや町会が色々な工夫をして頑張っている。そうしたところをもっと見てもらう書き方のほうが良いのではないか。

事務局

- ・活動に取り組んでいる団体と、一般的な区民とは全く別で、活動に全く縁がない区民に対して、活動に参加してもらうための仕組みをつくるのが大切だと言うことか。
- ・その記載がないことが気になるということか。

H委員

- ・8ページで2つの事例を挙げている。町会という団体の話をしているが、話の視点を変えれば、町会のアクションにより、地域住民が動き出したということになるのではないか。

B委員

- ・事例は、今までは、子育てに関する問題解決について、行政や社会福祉協議会がやるものだと考えられてきたが、実は町会だって、商店会だって、子育ての問題についても解決できるという事例だと思う。
- ・既存の子育て支援の仕組みだけではない部分で、どんどん区民が参加しているということである。そのあたりを伝えたほうが良いということである。

座長

- ・9ページの新しい試みの特徴の部分をもう少し掘り下げて記載する必要がある。
- ・また、この部分で、課題解決の向上や相互補完だけでなく、こうした取り組みが継続的に続いているという時間軸みたいなものが必要だと感じた。
- ・さらに、これまで関わったことが無い人が参加する場として機能していることも加筆する必要がある。
- ・事例と新しい試みの特徴をもう少し関連づけながら、見せていけると、ヒントがここにあるという見せ方が強くなると思うので、その方向で修正する。
- ・他に意見等はあるか。

B委員

- ・2回目の会議のワークでは、企業や事業者だって、地域の課題解決に貢献したいと考えていても、営利活動だと思われてしまう。でも、関わりたい人はたくさんいるという話をした。
- ・3回目の会議のワークでは、コーラスグループでも、協働することで地域の高齢者の見守りに関われるという絵を描いた。
- ・従来では考えられない分野の団体や事業者でも、協働することによって、新しい展開が生まれる。また、その団体の機能が拡張できるということだと思う。

I委員

- ・今回の諮問の中に、「組織の縦割りを超え、区民と区の協働を推進する体制づくり」

がある。区の組織の課題として、担当部署、担当者が変わると考え方も変わる。区民が何年も活動を続けていくためには、協働が必要だという、メッセージがあると良い。

座長

- ・他に意見はあるか。

C 委員

- ・諮問に対する提言を、分かりやすく記載したほうが良い。

D 委員

- ・この会議では、委員と区職員と一緒にワークをやってきた。文中の「私たち」には、区職員も含まれているのか。

事務局

- ・報告書の中の「私たち」は、委員のことである。

座長

- ・他に意見はあるか。

G 委員

- ・言葉使いの話であるが、複数の箇所に「私たちがめざす協働の姿」とあるが、「姿」という形や形式をめざしているように思える。めざすべきは結果だと思う。言葉使いを考えて欲しい。

座長

- ・「姿」は形でもあり、プロセスでもあり、結果でもあると思う。「姿」という言葉を使うのであれば、その意味が分かるように工夫をする。

- ・他に意見はあるか。

F 委員

- ・実際に活動をしていると、多くの団体が、様々な壁にぶつかり困っている。それらに対して、どのように支援するのが見えてこない。この部分については、提言を受け、区が考えていくということか。

事務局

- ・提言を受け、区では、「区民参加と協働のグランドデザイン」を作成する。具体的な支援策について、これまでの会議の中で出された意見等を踏まえ、提言の中で、記載ができれば良いと考えている。

座長

- ・他に意見はあるか。

B 委員

- ・11 ページ、12 ページの委員からの意見の記載について、26 ページ以降の第 4 回目の会議のワークの意見を活かして修正して欲しい。

座長

- ・これまでの意見を踏まえ、修正を行う。

- ・修正については、座長一任でお願いします。私と事務局で修正作業を行う。

座長

- ・次に、報告書の中で、各委員からのコメントを掲載する予定としている。
- ・検討会議の中で気づいたことや、区民参加と協働を進めるにあたり、これから大切だ
と思うことなど、各委員からのメッセージのようなものを記載したい。
- ・本日、各委員からコメントをいただき、それを事務局でまとめることとしている。
- ・まとめたものを各委員に確認したうえで、掲載する。
- ・それでは、コメントをお願いします。

- 各委員からのコメント

座長

- ・専門調査員からコメントをお願いします。

専門調査員

- ・地域の課題について、地域の皆様が集まって考えるという場に何度も参加してきた。
こうした場の中で、みんなで何かをやれるという気配だとか、未来のイメージを持つ
ことから、すべてが始まると思っている。
- ・今回の会議は、区長からの諮問に対して考えるために、集まることができたが、こう
した場が、色々な場で、色々な仕掛けでできていく。人が集まれる場をどのように作
っていくのかが重要で、こうしたことを何回もやらなければならないと思った。
- ・その時に、場をデザインすることが大切であり、参加者の気持ちを載せていくことが
とても重要だということを、改めて感じた。

座長

- ・私自身も検討会議に参加して、ここまでワークショップを中心としたやり方をやった
ことがなかった。区の変容を恐れない姿勢に感謝する。
- ・課題と長所の分析に始まり、めざす協働の可能性を探求してきた。こうしたプロセス
が、今後、公共の議論の中で重要だと感じている。
- ・報告書では、そのプロセスを掲載している。この報告書は、練馬区だけに留まらず、
他の自治体にとっても参考になると考えている。
- ・区長への提言だけでなく、関心がある自治体と共有をしてもらいたい。
- ・最後に副座長からコメントをお願いします。

A 副座長

- ・組織の縦割りを超えてというところで、組織は縦割りでも横割りでも、斜めでも、区
民にとっては、あまり関係がない。区役所に行った時に、自分の言いたいことが伝わ
れば、それで良い。どのような形でも構わないので、内部で連携して、区民が一回で
用事が済むような体制を目指して欲しい。

B副座長

- ・別々の団体で活躍している人たちが、集まって意見を交わすことは大変大事なことである。
- ・なぜならば、自分は分かっているが、他の団体のことは分からない。こうした場合は、自分自身にすごく役に立つ。様々な意見を伺い、持ち帰り、自分たちの活動に活かしていく。逆に自分たちの情報も、皆さんに提供していく。様々な意見を伺う中で、発想の転換も生まれる。
- ・こうしたことが、この場でできたので良かった。

座長

- ・区を代表して地域文化部長から挨拶をお願いします。

地域文化部長

- ・検討会議にご出席をいただきまして、ありがとうございました。区民参加と協働のグランドデザインを作成するにあたり、より実態に即した、リアルな声をいただくため、各委員にお集まりいただきました。会議も、そのような趣旨を十分反映した内容になったと思います。
- ・報告書のまとめ方については、具体性に欠ける部分があったと思います。座長と相談の上で、各委員の声が反映されるように修正をしていきたいと思っています。
- ・ワークショップを中心として会議の手法については、区職員にとっては、非常に有意義だったと思います。
- ・区の出先機関はたくさんありますが、民間事業者への委託が進んでおり、区民の皆様とひざ詰めで話す経験や意識がある職員も減っています。区は、区民の皆様と協働すると言っていますが、区そのものが協働のあり方についての考えを変えないと、ついていけないのではないかと感じています。そのような意味では、今回の会議を、ワークショップを中心に、区職員も一緒になって考えることができたことは、今回参加した区職員にとってはプラスであり、区の他の場面でも、このような手法を取り入れていくことが、区民参加と協働に即した区職員をつくっていくと思っています。
- ・今後、「区民参加と協働のグランドデザイン」の素案を作成しますので、その時点で、再度ご意見をいただきたいと思いますと考えています。ありがとうございました。

座長

- ・以上で、第5回区民協働のあり方検討会議を終了する。